

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年2月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600123
法人名	NPO法人ケアサポートはんず
事業所名	グループホーム桃の家
所在地	鹿児島県阿久根市山下4452-1 (電話) 0996-72-3751
自己評価作成日	令和3年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に囲まれ四季の変化を、身体全体で感じる事が出来る場所に立地しており、自然体で穏やかに生活出来る様に支援している。自治会に加入しており、地域の行事や近隣の方との交流も出来、採れたての野菜など頂き食卓加えることも多々、管理栄養士の献立に基づき、個々の好みや、身体状況に応じ適切に提供している。利用者の状況や楽しみなど把握し、一緒に参加行っている。職員同士が気付きなど、声かけながら話し合い情報共有、利用者が穏やかに生活できるように、支援している。都度管理者にも相談し、確認行いながら「尊厳・思いやり・笑顔」を忘れず日々のケアに努めている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F 302号
訪問調査日	令和3年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道3号線から車で約10分程離れた緑豊かで静かな山間地域に位置し、有料老人ホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所が併設されている。周囲には遊歩道があり、利用者は散歩コースとして季節を楽しみながら散策できる環境となっている。

尊厳・思いやり・笑顔という運営理念と、利用者の能力を活かしてありのままの姿を受け入れて暮らしを支えたいという介護理念の両者を掲げ、職員は日々理念を意識しながら利用者本位のペースで支援に努め、待つ見守る姿勢を大切に取り組んでいる。管理者は毎日利用者の身体状況・支援状況をタブレットに入力して管理し、職員は必要時にいつでも確認しながらケアが実践できる体制づくりが構築され、管理者と職員が一体となってケアの充実に努めている。職員の希望休や勤務交代に対しても管理者は柔軟に対応し、研修には勤務として出席するなど職員のスキルアップを通してサービスの質の向上に繋げ、運営に反映させている。

地域住民とは運営推進会議・避難訓練・野菜の差し入れ・ホーム周辺の散歩等を通して触れ合い、日常的な交流が図られ、協力関係を築いている。管理者は地域の方々からの認知症に関する相談等にはすぐに対応し、地域の情報収集に努めるとともに専門性を活かして地域貢献ができるように努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念を掲げ、理念に基づいたケアが出来るように心がけている。	法人の運営理念・介護理念を掲げ、玄関・ユニットのリビングに掲示して毎日の朝礼・ミーティング・職員会議等で振り返り、日頃から理念を話題にして職員の意識向上を図り、日々の支援に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年新型コロナウイルスの影響で地域行事への参加や桃の家の行事への参加の願いが出来なかった。地域のヘアサロンの方々にヘアカットをお願いしている。	現在は自治会に加入していないが、自治会長をはじめ地域の方々とは日頃から交流を図っている。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い行事やボランティア等の受け入れはできないが、訪問理美容は2か月毎に実施できている。近隣の方々とは日常の散歩時に挨拶を交わしたり、野菜の差し入れを頂く等の関係が構築されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	自施設周辺の草刈や運営推進会議を通して情報を共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により、後半は書面により、意見を頂いている、そこからいろんな対策や予防法を得てサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月毎に開催していたが、現在は書面により家族・自治会長・民生委員・市職員・社協等から意見を頂いている。利用者の状況、ヒヤリハット、行政・家族・地域からの意見、講話、外部評価結果等について情報共有し、サービスの向上に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、電話等でやり取りしたり、運営推進会議へ参加していただいたりしている。	市の介護保険係・地域包括支援センター・社協等とは日頃から電話や窓口・運営推進会議・各種制度手続き等を通して意見・情報交換を行い、協働関係を築けるように努めている。地域のグループホーム協議会の研修は現在オンラインで実施されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出したいと言われる方には中庭を散歩していただいたり、声掛けを工夫したりして、居室への出入りは自由に行っている。	「身体拘束廃止に関する指針」に基づき、事例を通してミーティング等で身体拘束しないケアについて協議して職員の認識を深め、利用者の自由な暮らしを支援している。不適切な言葉に対してはすぐに注意し合い、本人のペースに合わせて「待つこと」を大切に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待が起こらないように心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県の研修に参加し、理解を深め活用できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な時間をとり、説明を行い、理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加やご意見箱などの設置し、いろんな意見や要望を取り入れている。	利用者からは日常のケアの中から表情やサイン等で、家族からは来所時や電話・毎月のお便り送付等を通して、意見・要望を把握するように努めている。うまく表現できない利用者の場合は、家族や職員から情報を得たり、気付きノートを活用して多くの意見等を得られるように努め、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや職員研修で意見や要望を聞いている、それ以外のときにも聞いている。	管理者は職員の意見・要望をミーティングや気付きノート等から把握したり、いつでも対応して話せる雰囲気づくりに努めている。中でも勤務形態に関する相談が多く、希望休が取れるように勤務シフトを調整したり、勤務交代にもすぐに対応するなど、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務については希望休などを事前に聞いて勤務を決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修などにも参加出来るように声掛けしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所から来ていただき研修をしていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が不安に思っていることやこうして欲しいと思っていることに耳を傾け、安心して生活できるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族より不安なこと困っていることを聞き、安心して今までと同じ生活が出来る様に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に本人・家族とよく話をしてどういうケア必要かどのような支援をしたらいいのかスタッフと話し合い対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の出来る事は、やってもらいながら、一緒にレクや作業に参加、思いやりの心で対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料入金時や電話で状況伝えながら、家族の思い、気付きなど伺う、時には文書などで状況伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の会話の中から、人の名前や地域名、場所など把握して話題にしなが、忘れない様にする。	現在は利用者を取り巻く馴染みの人や場と触れ合う機会が少なくなっているが、家族とは電話や手紙・写真等を通して今の状態を伝えるように努めている。利用者と職員間でも馴染みの話題で話が弾み、外出もままならない現状の中でストレス等も特に感じられず、本人らしく過ごすことができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士を観察、トラブル回避に努め、時には座席など変更しながら、良い関係の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや、知り合いの方に近況を聞くようにしており、時には話をしたりする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向や希望確認し、本人からは会話の中で確認、把握できるように努めている。	利用者の思いや意向は入居時や日頃の会話の中から把握できるように努めている。利用者本位の視点から生活歴・気付きノート・職員からの意見等から把握した情報を職員間で共有し、何気ないケアを通して、本人の状態に合わせてできる限りホームで暮らせるような支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、今までの生活の様子やサービス利用、医療、関わりの方からの情報把握しアセスメントに活用する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の過ごし方や、心身の状態把握し、ケアに活かす。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望確認し主治医やスタッフと話ながら計画作成行う。	利用者と家族の思いや意見を取り入れた介護計画は、職員・主治医等の意見も反映させて3か月毎にモニタリング、6か月毎に見直しを実施して作成している。利用者の状態変化時には随時計画を修正し、利用者らしい暮らしを実現するために、現状に即した介護計画となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、変化など細かくタブレットや、記録用紙に記入しスタッフ間で、情報共有し介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能が低下した時など、医療機関に相談し、臨機応変な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に今年は参加できないが、恵まれて自然の中で散歩が出来、地域の方とふれあいが、心の癒しとなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診がある。それ以外でも常に、体調変化に気を配りかかりつけ医と連携を行っている。	利用者の殆どは協力医療機関をかかりつけ医としており、月1回の往診が行われている。入居前からの継続したかかりつけ医を受診する場合にも十分な連携を取りながら支援を行っている。歯科も含めて受診は家族による支援を基本としているが、状況に応じ職員が同行し、継続的な医療が受けられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の細かい変化を相談し、適切な支援行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>地域の医療連携室と情報交換しながら、家族と連絡、情報交換し連携している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早めに家族と話し合い、特養などのすすめ、主治医の意見聴くようにする。</p>	<p>入居時に「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」と一緒に看取り介護についても説明している。主治医とは往診等を通して連携を密にとり、本人の体調変化に応じて本人・家族に説明し、意向や思いを汲み取り支援に繋げている。職員の中には看取りの経験者があり、研修等も行うことで終末期における対応についての心構えや不安の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>コロナで思うように出来ていないが、AEDの研修等受けて対応できるようにしている。利用者の変化を見逃さないように、常に気を付けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>コロナで今年は思うように出来ていないが、施設内で避難訓練や火災通報装置などの訓練を行った。</p>	<p>「非常災害対策マニュアル」を平成31年に作成し、年2回夜間想定で火災・風水害に対する避難訓練を消防署の協力を得て実施し、地域住民の参加も得られている。火災通報装置や消火器を使用した訓練・避難誘導等を実施し、備蓄は2ユニットまとめて水・米・味噌・乾物類を3日分、毛布・電灯・頭巾等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人を尊重し、声掛けに気を付け、対応している。	日頃の支援の中で、馴れ合いの言葉遣いにならないように気をつけ、トイレ誘導等では耳元で囁くなど特に声かけには配慮している。排泄記録は職員以外では見えない場所に置き、利用者の生活ペースを尊重した対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人が、意思表示出来る様に努め、返事しやすい声掛けをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、本人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的なヘアカット、本人の好きな服を着られるように、努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて、提供している。(ミキサー食・刻み)準備や片付けは出来る方はいないが、台拭きはして下さる。	同一敷地内の有料老人ホームの栄養士が献立を作成し、宅配で届けられた食材を基に調理専門の職員が個々の状態に応じた食事形態で提供している。利用者は台拭きとおしぼり配りを行い、職員も同じ空間で利用者と同じ食事を摂っている。おやつや行事食等も手作りして、食べる楽しみを大切にした支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立作成し、食事量・水分量の記録し、個々に応じた対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを行いそれぞれの能力に応じた対応行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握、個々に応じた誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄へと支援している。	利用者の排泄パターンは排泄チェック表を活用して把握しており、日中は殆ど全員がトイレで排泄できるように、声掛けや誘導の際にはプライバシーや羞恥心に十分配慮した支援に努めている。入居時に比べて、日々の支援を通して自立の方向へ改善してきている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携しながら、内服での調整を行い、水分量の摂取を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴で、個々のタイミングにあわせ、楽しんで入浴してもらえるように、声かけ行っている。（入浴嫌いの方の声掛け工夫している）	週3回、午前中に個浴で実施している。入浴前には健康状態を確認し、体調に応じてシャワー浴や足浴も可能である。入浴剤は使用せず、シャンプー等は共用とし、入浴後の水分補給や保湿剤使用も行いながら、無理強いすることなく気持ちよく入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて、午睡する方もいるが、散歩、体操などにて夜間帯安眠出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬は常に、理解するように心がけている。状態変化に気を付けながら、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を活かし、洗濯物たたみ等できることをして頂く。歌やレク参加にて楽しみのある生活支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遊歩道やテラスは自由に散歩されている。外出は今年は出来ない。	現在はホーム外へ行事や外食・買い物等で出かけることができず、遊歩道・テラス・中庭・近隣等への散歩を行い、車いすを使用した散歩も支援している。外気浴や職員が育てている花・リビングに生けてある花等で季節を感じることができるように、少しでもリフレッシュできる支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小使いとして手元に持っている方もおり、自由に使うことは出来る。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、電話は何時でも使えるようにしてある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は落ち着き、楽しめるように季節の花や、飾り物、音楽をかけたりしている。空調で適切な温度、湿度の管理行っている。トイレはプライバシーに配慮してある。（カーテン利用）</p>	<p>2ユニットが左右対称に配置され、玄関・事務室から一望できる。明るいホールは空調管理され、加湿器・時計・日めくりカレンダー・季節の花・行事ごとの作品飾り等があり、お茶の時間には音楽が流れる。畳スペースには利用者が日々参拝できる仏壇があり、洗濯物をたたんだり横になるなど、ゆったりとくつろげる環境となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のソファに座り、テレビを見られる方や、会話を楽しまれる方、それぞれが思い思いに過ごされる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には使い慣れた、布団・家具・テレビ・写真など置き自分空間を楽しまれている。	居室は畳4.5畳、板間2畳のフローリングがあり、腰高窓から外の景色を眺めることができる。ベッド・エアコン・洗面台が設置され、利用者は使い慣れた布団・家具・テレビ・時計・位牌等を持ち込んで、本人らしい空間を作り落ち着いて過ごせるように支援している。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	居室には手すり、スロープあり、安全に過ごせる様にしてある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない